



ひょうごローズクラブ
Hyogo Rose Club

Scent of Roses

バラの香り

<http://www.rosehyogo.jp>

活動報告	1・2
奥深いバラの世界	3
バラにまつわる話「薔薇のポプリ」	4
ひょうごのバラ園「フラワーセンター」	5
連載「世界の文献に見るバラの話」	6

表紙のバラ「魅惑」（上沼さん栽培 P3参照）

第4号
2009.1

ひょうごローズクラブ活動報告

ひょうごローズクラブも設立から2年目を迎え、本年度も様々な活動をおこなってきました。平成20年12月末までの主な活動内容をご紹介します。

ひょうごローズクラブ設立総会・記念講演会

6月29日(日)に、兵庫県公館で、平成20年度総会と記念講演会を開催しました。会場には、兵庫県内のバラ園を紹介するパネル展示の他、当会理事でもあるバラの育種家寺西菊雄さん、前野義博さん、浅見均さんの作出されたバラが切り花や鉢花で展示紹介され、参加者の興味を引いていました。その他、兵庫県内で切り花用として生産されているバラ約60品種が展示され、会員はじめとするバラ愛好家ら約250名の参加者に、バラの香りがほのかに漂う優雅な雰囲気を楽しんでいただきました。

ひょうごローズクラブ 平成20年度総会・記念講演



総会は、花をテーマにしたミニコンサートで始まり、来賓の井戸敏三兵庫県知事からの祝辞のあと、総会議事が執り行われ、平成19年度活動報告、決算、平成20年度事業計画などが提案され総て原案どおり承認されました。

総会後に行われた記念講演会は、ガーデニング雑誌BISSES(ビズ)編集長の八木波奈子さんに「BISSESがバラを愛してきた理由」というテーマで講演があり、ガーデニング愛好家のバラに対する関心の高さを改めて知ることができました。

続いて、園芸コンサルタントの藤岡友宏理事に「秋にきれいに咲かせるために」というテーマで、蒸し暑い関西の夏を乗り切り、秋にきれいな花を咲かせる夏季の管理のコツについてお話しをしていただきました。

その他、本年は総会と記念講演会の合間に、参加者は、バラジャムをはじめ、バラ飴、羊羹、クッキー、ジュースなどをローズヒップのハーブティーと共に試食を行いバラの多様な利用法を体感していただきました。



栽培講習会



本年は、ばらの栽培管理を6月と7月に計5回の講座で集中的に学ぶバラの達人講座を播磨中央公園との共催で、また春夏秋冬の季節毎の管理を学ぶバラの実践講座

を6月から1月までの間に計5回、フラワースクールの共催で開催しました。毎回20名前後の会員が参加されました。他にも、夏季のバラ剪定講習会を明石公園、播磨中央公園、北播磨余暇村公園、フラワースクールの共催で開催しました。



プリザーブドフラワー教室

10月には、須磨離宮公園の協力を得て、バラのプリザーブドフラワーによる壁掛けづくり教室を開催しました。講師には、兵庫ハーブネットワーク会員でフラワーコーディネーターの平尾ひろ子先生をお招きし、作品は2時間ほどで完成しました。



バラの香りを楽しむ講座

11月には、荒牧バラ公園のみどりのプラザで、バラのポプリとエアフレッシュナー（アロマスプレー）を手作りする、バラの香りを楽しむ講座を開催しました。講師には、ローズク



ラブ会報に寄稿をいただいている山本淑子アロマセラピストスクール校長の山本淑子先生にお願いしました。参加者はバラの香りに包まれながらポプリとエアフレッシュナーを作り上げる事ができました。

花フェスタ記念公園バラ園視察研修会

10月26日（日）に、70名が参加しバラ園視察研修会を開催しました。花フェスタ記念公園バラ園（岐阜県可児市）では、バラ園設計者の白砂伸夫神戸国際大学教授からバラ園の設計コンセプトや設計から造園工事に至るまでのお話しを園内を回りながらいただきました。

花フェスタ記念公園は、平成7年に開催された「花フェスタ'95ぎふ」の会場を再整備し、四季が彩る「花飾り見本園」をコンセプトとし「花の都ぎふ」づくりの中核拠点として、またバラをテーマにした公園として、平成8年4月に開設されました。全体面積が80.7haでバラ園は、面積9.1ha約7,000品種、60,000株のバラが植栽されており日本有数の大規模なバラ園です。

園内には、日本で唯一公認されているターシャ・テューダーの庭もありましたが、広大なバラ園であり、また春にぜひ来てみたいとの声が多数出ていました。



ホテルオークラとの協賛事業

秋には、ホテルオークラからの提案があり、ひょうごローズクラブとホテルオークラの協賛で事業をすることになりました。

当クラブの会員である須磨離宮公園、確実園本園、アサミローズセレクションの協力を得て、11月1日から30日までの1ヶ月間ホテル内のレストランやバーをバラで装飾し、ひょうごローズクラブや須磨離宮公園のバラ園を紹介しました。



なお、今後1月下旬から2月上旬にかけて各公園との共催で冬季剪定講習会の開催を予定しています。詳細は、裏表紙の行事予定を参考に各公園あてにお申し込み下さい。



「魅惑」に魅せられた漢文の先生、(財)日本ばら会理事 上沼 匡一(かみぬま きょういつ)さんのご自宅を訪ねました。

奥深いバラの世界

その3

上沼さんは、切り花の出来ばえを競う競技花の魅力にひかれ、これまでに数々の輝かしい賞を受けられた(財)日本ばら会関西支部の至宝です。1999年「武州」で、2000年「メルヘンケーエギン」でそれぞれ日本になり、また2002年には「ローラ」の二輪花で理事長杯を受賞。他にも数々の栄冠に輝かれています。ひょうごローズクラブの会員でもある上沼さんに競技花の魅力について語っていただきました。

バラ栽培へと誘われたきっかけは？

父がキクを栽培し、コンテストにも出品していたことがベースにあると思います。元々土いじりが好きでしたが、父と同じキク栽培には抵抗があった中、大学時代に「ブルームーン」に出会ったのを機にバラの世界へ入りました。

バラへの想いを語って下さい。

完璧にできた輪は、触るのが恐いくらいの芸術品。色、形、香り、葉一枚に至るまで計算されつくされた完成品に強く惹かれます。

花の出来上がりは、品種改良家の力が3割、栽培技術が5割、天候が2割です。現在160品種、320本ほど栽培し、そのうちコンテスト向きは12品種程度です。新しい品種も増やしながらか、その時々うまく咲いたものを出品しています。



「魅惑」の栽培に凝っていますが、奥深いです。あちこちから穂木を入手し、「魅惑」だけで200株ぐらい作っては捨てました。遺伝子が不安定で、気候、血筋によって、ピンク

色、クリーム色、黄色と発色に違いが出ます。競技花には特性が必要です。標準タイプの「魅惑」と一味違うもの、発色の鮮やかさ、しんの高さ、

花の形等がポイントになります。

「魅惑」の栽培家は他にもいますが、自分のものが一番美しいと自負しています。今の目標は「魅惑」でこういう花を咲かせて日本一をとる事です。



競技花栽培のこつ

鉢のほうが肥料や水のコントロールがし易く、9号ぐらいのプラ鉢が適しています。根をぎゅつと締めていじめた方が花は危機感をもって良く咲くようです。夏にいいシュートがでたら、秋にいい花が咲きます。

赤玉のような水持ちの良い土、腐葉土などを吟味して入れます。肥料は経験の中で、品種、土、作り方に合われます。日当たりのよい、風があまり当たらない所で栽培します。

コンテストへの持ち込みは審査時間に慎重に合わせます。東京のコンテストに出品する場合は、早朝に切り、1時間ほど水あげし、開花の状態をみて、品種数

の3倍ほど選び、特別の容器に入れて新幹線で持って行きます。審査の15分ぐらいが勝負。緻密な計算が必要です。

コンテストにチャレンジしたい初心者の方へ

まずはコンテストを見に行ってください。見たら、やりたくなります。毎年5月に大阪の「咲くやこの花館」や10月に長居植物園で開催されるコンテストには初心者の方もあり、バラ会に所属していなくても出品できます。初心者にはテコナ、ジェミニ、メルヘン、コンフィナンス等コンテスト向きで栽培しやすいものがお薦め。キク栽培のようなルールはないので、取り組み易いです。作品を持って行って、愛好家同士でわいわいやるのが楽しいです。



参加者は女性のほうが多いです。30代の方もいますが、高齢化が進み、住宅事情からも出品者は減少気味。老若男女を問わずどんどん出品して下さい。

お話を伺って、競技花の繊細な世界の醍醐味を垣間見させて頂きました。夢を実現されて、日本一の「魅惑」のたまたまいを、是非バラ愛好家に鑑賞して下さい。

上沼 匡一 かみぬま きょういつ

1956年 長野県生まれ。大学・大学院時代の専攻は中国文学(唐詩) 84~86年 北京留学 90年 明石に転居後、本格的にバラ栽培を始める。現在、予備校講師として大阪・神戸・広島を駆け回りつつ、バラ栽培を手がける(財)日本ばら会理事



薔薇のポプリ

ポプリ(Potpourri)という言葉はフランス語が語源で、様々なものを混ぜ合わせるという意味をもち、もともとシチューや野菜のごった煮をあらわす料理用語として使われていました。今では花やハーブ・スパイス、木の实などと香料を混ぜ合わせて作る室内香のことと定義づけられるようになっていきます。



■歴史について

古代エジプト王朝ファラオの時代に、すでにポプリはつくられていました。古代ギリシャやローマ人も香りを楽しみ、入浴剤にポプリを利用していたそうです。古代の人々は、空気清浄剤や防虫・殺虫剤として、また安眠剤として枕にしたり、日常生活に欠かせないものでした。とくにヨーロッパの家庭では「薔薇の壺」、香料を塗り込めた「ポマンダー」、**「匂い袋」**などが常備してあり、部屋ごとやクローゼットにこういう物を置いておくのが習慣となっていました。私の友人の南フランスの家庭では、今でも毎年夏に収穫したラベンダーをリボンで編んで、リネンに差し込んで香りを移しているそうです。

■ポプリ作りに必要な教材

花(薔薇、カモマイル、ヤグルマギク、マリーゴールド、ラベンダーなど)
ハーブや葉、スパイス、木、根、樹脂
精油(エッセンシャルオイル)、ポプリオイル

■基本のメソッド

『薔薇のポプリの材料と作り方』

ポプリ作りはとてもシンプルです。材料さえあれば、誰でも作る事ができます。特別な道具も要りません。失敗の少ない「薔薇」から始めてみましょう。



○主材料 よく乾燥させた薔薇の花びら…1カップ(料理で使う計量カップ)

○副材料 薔薇の葉…2〜3枚(小さなもの)
ローズマリー…大さじ2杯

砕いたシナモンスティック、クローブ…各小さじ1杯

○保留剤 ラベンダー…大さじ1杯

○精油 ローズ…1滴

◎作り方

1、広口のガラス瓶に主材料・副材料を入れる。

2、ラベンダーに精油を滴下し、よく含ませる。

3、全部混ぜて瓶の口を密閉し、2週間熟成させる。この間、時々ゆすって全体を混ぜる。

※熟成後、ガラスポットや飾り皿に飾る。ただし、直射日光に当てないこと。

ひょうごのバラ園 クローズアップ フラワーセンター



早春のパンジー、ビオラに始まり、春にはチューリップやバラ、初夏にはハナショウブ、夏はサルビア、紅葉の秋にはモミジバフウの並木道。温室では球根ベゴニアや食虫植物と年中花の絶えることを知らないフラワーセンター。

「フラワーセンター」と聞くとチューリップのイメージが強く、バラの咲く公園としては、姉妹園の播磨中央公園に知名度では一步譲った感じを持たれますが、バラ園の植栽面積や植栽本数においても何ら引けをとるものではありません。

現在、フラワーセンターには約2,850㎡の敷地に320品種、2,000本のバラを植栽しています。

大輪で花の豪華なハイブリッドティー系や、中輪でも5月～11月まで休むことなく花を咲かせるフロリバンダ系を始め、蔓性のバラをポール仕立てやフェンス仕立てで植栽しています。

また、原種を集めたコーナーや、近年特に修景用のバラを集めたコーナーなども設けています。

フラワーセンターでは、皆さんが手軽にバラ栽培に興味を持っていただくために、年に2回(8月下旬と2月上旬)園内のバラを使った剪定講習会(要予約)を行つています。この剪定講習会に参加いただいたみなさまからは、思いっきりバラが剪定できるとあって好評をいただいています。ぜひ皆さんも参加してみませんか。

また、フラワーセンターへお越しになれない方のために、フラワーセンターでは、県内各地で花の教室を開催し、バラの栽培方法の講義も組み込んでいますので、ぜひお問い合わせください。



また、フラワーセンターへお越しになれない方のために、フラワーセンターでは、県内各地で花の教室を開催し、バラの栽培方法の講義も組み込んでいますので、ぜひお問い合わせください。

平成20年度からは、ひょうごローズクラブ会員の皆様のために、バラ園の一部を使って剪定講習会を開いたり、昨年12月13日には新規に160㎡のバラ園を作り、会員とともに270本のバラ苗の植え付けを行いました。

今後も、接ぎ木や施肥の講習会などを次々と計画していく予定です。

最後に、フラワーセンターでは植物園ボランティアの協力によって、花殻摘みや除草作業を行っています。ぜひ、皆様もご参加ください。



バラとユリ ROSE AND LILIES

HOME AND GARDEN

Gertrude Jekyll Longmans, Green and CO. 1920 P77-87

連載
第4回

世界の文献にみるバラの話

今回は19世紀終わりから20世紀初めにかけてイギリスで活躍した女性園芸家のガートルード・ジェクルの著書『家庭と庭』からバラに関係した部分を抜粋して紹介する。彼女は庭で育てやすい植物や植栽デザインなどの面で、現在のガーデニングに多大な影響を与えた。

(本文抜粋)

心に浮かぶ庭の花を考えると、バラとユリほど大きな存在はないだろう。何世紀もの間、園芸植物の中でこの二種は大きく君臨してきた。この千年の文明の進む中で、バラとユリは、常に人の心を虜にしてきた。この二種は榮光につつまれており宗教、政治にも現れている。イギリスの歴史においてもイングランドのバラ、フランスのユリは血塗られた戦地でも、平和な安らぎの庭でもたびたび歴史に現れている。イングランドのバラは王家の紋章だけでなく役人の紋章にも現れ、今では国を代表する花となっている。この二種の花は二国民の象徴となっている。ユリの花は純粋さ、高潔さ、純潔さを表すが、バラの花は何を意味するのだろうか。騎士のバッジに使われもしたが美、甘美さ、歓喜、強さや正当性、忠誠など時と場合で意味が変わって用いられている。

さて、庭では様々な植物が育てられている。さまざまな園芸植物の中には、植物学的にはバラ(ローズ)やユリと違うのだけれども形が似通っていたり、花の美しさゆえにバラやユリと言われる植物が幾つもある。英名のクリスマス・ローズ、レンテン・ローズはその代表例である。キンポウゲ科の植物で真冬から4月まで咲く。ロック・ローズ、サン・ローズと言われるのは *Cistus* や *Helianthemum* である。マウシユカンボク(ヨウシュカンボク)であるゲルダー・ローズは白い球状の花を咲かせいろいろな使い方ができる灌木である。特に壁に這わせると良い材料である。耐寒性は

とても強く、庭の塀に似合う植物である。寒冷地の吹きさらしの壁や塀にこれほど適した植物はないだろう。シヤロンのバラはシ

リア原産の秋咲きの植物で良く知られたムクゲ *Hibiscus syriacus* のことである。ゼアオイやホリホックの近縁の植物である。やや耐寒性が弱いので塀沿いに植えるといいだろう。白の八重や青の品種が推奨できるが、ほとんどは青みをおびた、ピンクの花である。ユリの場合も同様で英名にユリのつくものをあげてみる。谷間のユリ(Convallaria)、聖アールのユリ(*Anthericum*)、岬のユリ(*Calla*)、アマゾンユリ(*Agapanthus*)、岬のユリ(*Criminum*)、アマゾンユリ(*Eucharis*)、シラドンナユリ(*Amaryllis*)などがある。



ヨウシュカンボク



岬のユリCrinum



花瓶のチャイナローズ

英名でバラがつく植物の解説

通用名	英名	学名	科名
クリスマス・ローズ	Christmas Rose	Helleborus niger	キンポウゲ科
小型のクリスマス・ローズで促成栽培するとクリスマスに開花する。栽培例は少ない。			
レンテン・ローズ、春咲きクリスマス・ローズ	Lenten Rose	Helleborus orientalis	キンポウゲ科
春咲きクリスマス・ローズとも呼ばれ関西地方では3~4月開花で常緑性の草本である。			
ロック・ローズ、サン・ローズ、キスタス	Rock Rose, Sun Rose	Cistus spp.	ハンニチバナ科
地中海地方原産で日当たりを好み乾燥にも強い。初夏の頃に次々と開花する。コンテナ栽培に適している。			
ロック・ローズ、サン・ローズ	Rock Rose, Sun Rose	Helianthemum spp.	ハンニチバナ科
日当たりを好み乾燥にも強い。初夏の頃に次々と開花する。石畳の間に植えると生育が良い。			
ゲルダー・ローズ、ヨウシュカンボク、セイヨウカンボク	Guelder Rose	Viburnum opulus	スイカズラ科
ヨーロッパ原産のガマズミ属の植物である。			
シャロンのバラ、ムクゲ	Rose of Sharon	Hibiscus syriacus	アオイ科
記述では秋に開花となっているが関西地方では夏の花のイメージが強い。乾燥、日当たりを好み痩せ地でもよく育つ丈夫な中木である。			

兵庫県立淡路景観園芸学校
主任景観園芸専門員

能勢

健吉